

令和2年2月26日

美深町議会議長 南 和 博 様

産業教育常任委員会委員長 岩 崎 泰 好

所 管 事 務 調 査 報 告

本委員会は、閉会中に所管事務調査を行ったので、会議規則第77条の規定により別紙のとおり報告する。

記

調査日

令和2年1月20日（現地視察）・21日（聞き取り調査）

調査事項

社会教育の充実、生涯学習機会の充実の現状と課題について

調査内容

各種学級や講座開設事業にあつて、COMカレッジ110美深大学等の歴史と現状について調査し、抱える課題について調査するもの

調査のまとめ

（1）学級数・学生数の推移と年齢構成について

学生数では、令和元年度303人で平成27年度376人と比較すると5年間で19.4%の減少がみられ、年齢構成もその中心が70歳代から80歳代に移行し、60歳代の減少が著しい傾向がみられる。学級数は9校の分校があるが、休校や活動内容の減少がみられる状況だが、農村部の3校合同の講座参加は足の確保や運営の努力で継続している。全体学習では近年、体育祭や文化祭への参加減少傾向にあり、新年の集いの参加者は130人。年間活動者は、70人から80人。全体の傾向はイベント性のある内容に参加意欲が上がり、学習機会は敬遠される現状にある。さらに、美深町高齢者保健福祉計画のアンケートでは、地域での活動について参加していないが6割おり、男性の不参加率が特に多い現状。

課題は、60歳以上の対象者をより多く入学者として迎え入れる魅力づくりとそれに伴うカレッジの活性化にある。大学設置の目的には『充実した社会生活を送るため、幅広い学習機会をつくり社会貢献活動を通して生き甲斐ある人生観を確立すること』とある。

委員会として、以下の点に留意して課題解決の方向性を見出すよう強く望む。

- ①募集の工夫や仕掛けづくりに創意工夫と改善策が必要
- ②学生のニーズがどこにあるのか現状の把握と満足度向上
- ③興味や魅力を繋げる学習機会の再構築や道民カレッジとの連携
- ④個々人の文化活動や趣味の活動も教育課程の選択科目として位置づけを図る
- ⑤各種サークル活動との連携とポイント制の導入を検討
- ⑥分校活動には他地域との交流や他地域からの参加を可能とする方策の検討

【参考資料】

図1 学級数の推移と年齢構成について（過去5年間）

【単位：人】

年齢区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
60～69 歳	3 1	3 0	3 3	3 3	1 1
70～79 歳	2 0 7	1 9 7	1 6 7	1 5 4	1 1 1
80～89 歳	1 2 8	1 3 6	1 3 9	1 2 7	1 5 5
90 歳以上	1 0	1 1	1 0	1 0	2 6
合 計	3 7 6	3 7 4	3 4 9	3 2 4	3 0 3